

意見書(要旨)

農業農村整備事業予算の確保を求める意見書

農業農村整備事業は、農業生産基盤の整備、豊かな自然環境や景観の保全、治水等の多面的機能を維持する観点から、欠くことのできないものであるが、平成22年度予算は大幅な削減がされ、平成23年度はさらなる削減が予想される。

急激な削減は、必要な生産基盤整備の長期化や中止、農業・農村のさらなる疲弊を招くと同時に、農業そのものが成り立たなくなり、国民全体への不利益にもつながることを危惧するものである。

よって、政府においては、農業農村整備事業の重要性を評価し、農業生産基盤の今後の整備、更新、維持管理が円滑に進められるような事業予算の確保などに配慮するよう強く要請する。

自給率向上に向けた農業と安定した農家の育成を求める意見書

政府は、平成22年度予算で、米の戸別所得補償モデル事業として、5,618億円を計上した。同事業は、農家の経営基盤強化に向けて期待の声がある一方、多様な農業の発展にも支障を及ぼすとの見方もある。また、本県の茶園で3月末に発生した凍霜害により、セーフティーネットの構築は不可欠となっている。

よって、国会及び政府には、戸別所得補償制度の本格的導入にあたっては、多様な農業の展開に資する制度とすることなどに留意し、自給率向上に向けた農業と安定した農家の育成を進める施策の充実を行うよう強く求める。

子宮頸がん予防ワクチンの定期予防接種化を求める意見書

女性特有のがんである子宮頸がんは、国内でも年間約15,000人が発病し、約3,500人が命を落としている。子宮頸がんは、検診とワクチンでほぼ100%防ぐことができるがんとされている。

日本でも昨年12月にこのワクチンが認可され発売されたが、ワクチンは注射による3回の接種が必要で、接種費用は4~6万円と高く、接種者には重い自己負担となる。

よって、国においても、予防接種法に位置づけ、一日も早く公費助成を実施するなど、子宮頸がんの予防に取り組まれるよう強く要望する。

以上、衆・参議院議長、内閣総理大臣、各担当大臣あてに提出しました。

全国市議会
議長会の表彰

去る5月26日、東京日比谷公会堂において、第86回全国市議会議長会定期総会が開催され、永年勤続議員に表彰状が贈呈されました。

本市議会では、佐藤省二議員、秋田稔議員、高橋美博議員、戸塚文彦議員、大場正昭議員、山本貴史議員の6人が議員在職10年以上により、表彰を受けました。



9月市議会定例会のお知らせ

9月定例会の予定は次のとおりです。

【場 所】市役所5階議場または各委員会室

【時 間】午前9時から

【日 程】< 9月定例会 >

- 9月 1日(水)開会、議案の説明
- 8日(水)市政に対する一般質問
- 9日(木)市政に対する一般質問
- 10日(金)市政に対する一般質問
- 14日(火)議案の審査(常任委員会)
- 15日(水)議案の審査(常任委員会)
- 16日(木)議案の審査(常任委員会)
- 29日(水)委員長報告~採決、閉会

あなたも議会を傍聴してみませんか。

当日、市役所5階の議会事務局で受付をします。

足の不自由な方、妊婦の方なども段差解消機を利用し傍聴席へ入れます。赤外線補聴システム、段差解消機をご利用の際には、議会事務局へ声をおかけください。



段差解消機



赤外線補聴器

NO.27 市議会だより

〒437-8666 袋井市新屋1丁目1番地の1
TEL(0538)44-3143(直通) FAX(0538)44-3148
ホームページ <http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>
メールアドレス gikai@city.fukuroi.shizuoka.jp
発行/静岡県袋井市議会
発行日/平成22年7月15日

「皆様に、少しでもわかりやすく!」毎回のことながら、委員の意見が飛び交います。今回も活発な議論を通して、よりよい紙面づくりに努めてきました。地域主権のもと、議会の役割・責任はますます重くなる今、市民と議会をつなぐため、定例会の内容掲載だけにとどまらず、より一層紙面の充実に努めてまいります。

編集後記